

□□□□□□□□□□□□■●●●●●●●●●●●●●●□□□□□□□□□□□□

平成 18 年

メールマガジン 『日本人の 98% は知らないタイ株投資!』

Home Page はこちら 「タイ株(アジア株)と海外投資」 <http://thaikabu.net/>

Blog はこちら 「アジア株(タイ株)と海外投資」 <http://toatoajugem.jp/>

発行者 TOSHIYUKI ABE (タイ在住)

□□□□□□□□□□□□■●●●●●●●●●●●●●●□□□□□□□□□□□□

タイ株投資情報 第5号

今回から登録していただいた皆様。まずは有難うございます。

タイ株(アジア株)と海外投資のブログを管理/運営/書き込みをしている ABE と申します。

2004年にタイで働き始めてから同時にタイ株投資を実践してみました。

結果はまあプラスでちょっと良いくらいでしょうか。

しかし知り合いの方では読みがずばり当たって倍にしている方もおります。

さて第5号です、たいへん間延びしてしまいましたが今回もよろしくお願い致します。

□□No 1 タイ株初心者編です■●

それでは今回はタイのテレビの概要とシステムからです。

(すでにご存知の方は上級編へ)

1：タイのテレビチャンネル

タイのTV業界はどうなってるか。

タイには6つの地上波放送局と有料放送のUBCと言う衛星放送番組があり

日本人だとNHKや海外のサッカーの試合などが見れます。

(しかし普及率は約45万人で2.5%くらいです)

チャンネルには政府系2チャンネル(3Ch、9Ch)陸軍系(5Ch、7Ch)

情報省1チャンネル(11Ch)そして民間のITVがあります。

管理のところで4つの機関が6つのチャンネルを管理運営しています。

3 Ch MCOT(管理)
Bangkok Entertainment Company (運営)

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

- 5 C h Royal Thai Army (管理)
Royal Thai Army Radio & Television (運営)
- 7 C h Royal Thai Army (管理)
Bangkok Broadcasting & Television(運営)
- 9 C h MCOT (運営&管理)

- 1 1 C h Public Relation Department(管理)
Television of Thailand (運営)
- I T V C h Office of PrimeMinister(管理)
ITV public Co.,Ltd. (運営)

< 2 0 0 5 年度のプライムタイムのシェア >

C h 3	2 1 %
C h 5	6 %
C h 7	4 5 %
C h 9	1 1 %
C h 1 1	3 %
I T V	1 4 %

C h 3 を運営する B E C 社は大手プロダクションなどを傘下にして
メディアコンglomリットを形成してありますが最近視聴率競争で
C h 7 に負けており苦戦しています。

C h 5 国防省を支援する目的で作られた放送局で陸軍直営ですが
軍事色は薄く人気ゲームショーなどの番組も多数放送しています。

C h 7 プライムタイムで 4 5 % という圧倒的なシェアを誇る放送局で
(この数字が正しいのか検証しにくいですが)
タイドラマではかなりの強さを誇るそうです。

C h 9 M C O T は 0 4 年秋に上場されましたが好調で前年比 3 0 % の
増収だそうです。(第 1 四半期)

C h 1 1 総理府広報部が運営する国営 T V 局です。日本で言う教育テレビみたいな
ものでほとんどコマーシャルもつきません。

I T V 9 2 年の民主化運動の後 9 6 年に独立系 T V 局としてスタート。
しかし債務超過に陥り シンコーポレーションの傘下で再スタート。
報道の I T V を確立しアジアのドラマ (日本韓国中国) を手広く放送。

管理人のコメント

タイのドラマは家庭や恋愛のいざこざが多くてワンパターンな認識なんです

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

わたくしはまだまだ理解不足なんで主にニュースを見てます。
昔の日本のようにタイ人の家庭では本当にたくさんTVを見るそうです。
ドラマも数多く、中国のもの、韓国のもの、日本のものと言う風に
訳されて放映されています。

またバラエティー番組でも
料理の鉄人、TVチャンピオンなど昔ちょっと日本で流行ったものを
タイで再び放映しています。
日本のドラマも少し遅れてタイ語に訳されて放映しています。

株式で見るとMCOT、ITV（株価は激しく下げました。）
BEC、UBC、WORKなどがTV業界になります。

□□No 2 タイ株上級者編です■

過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 005 CPF です。○○

タイ国のみならず東南アジアでも大手食品・加工メーカー。
タイ国において食品の生産、販売において最大の企業。
鶏肉、豚肉の加工用食品の輸出販売、魚介類、エビなどをメインとした
食品輸出から始まり、数多くの子会社を手がけており中国への進出もしている。
さらに小売 通信 不動産など、幅広く20カ国250の会社を展開し
約20万人以上の従業員を抱え、年間売り上げは150億ドルに上る。
中国華僑の謝家が基礎を作った巨大財閥で、タイで最大のコングロマリットと
言われ、全部で8つの分野で事業を展開している。

国際的には、アセアン各国や中国などを中心に世界13カ国に進出。
特に近年は、中国へ積極的に進出しており正大集団（チアタイ集団）として知られる。
タイの企業は中国への進出に消極的と一般に言われているが、
その中で積極的に中国本土へ投資しており、珍しい存在だとされている。

タイでも多くの子会社を傘下に連ねており、主力子会社には
小売流通ではコンビニエンスストアの CP Seven Eleven (CP7-11)
電信・携帯分野では通信大手 True Corporation (TURE)
TV放送分野で 有料テレビの United Broadcasting Corporation (UBC)
など数多くの SET 上場会社を束ねている。

さて5回目はCPFです。
タイの人々はCP、もしくはCPフーズでよく知られております。
SET内時価総額でも大きな食品大企業です。
バンコク市内のオフィス街で知られるシーロム通りにある

CPタワーが本社になります。

数多くの子会社を抱えており、タイ人の間でも知らない人を探す方が困難で、CM、看板もどこでもあります。
日本の明治乳業とも提携していてCP-MEIJI と言う会社も傘下にあります。

鶏肉の輸出での関連で

近年は鶏インフルエンザの影響が響いた結果株価に影響している感じです。
この部分さえ解決されればもう少し株価は上昇してもいいのではと
考えています。

もう少し詳しく知りたい方はホームページでよろしくお願ひします。

□□No 3 タイ国内ニュース編です■ ■

今後のFTAの行方を左右するAPECが11月開かれました。

先日行われたベトナム・首都ハノイでのAPEC (Asia-Pacific Economic Cooperation : アジア太平洋経済協力) があり今後の経済連携協定などでアメリカからの提案と意見が強くあったようです。

この会議に出席したスラユット首相は、暫定政権における仮の首相であり国民からきちんとしたプロセスで選ばれていないために彼の元に駆け寄り親密にやり取りする光景は皆無だったようです。

いままでタイ・シンガポールで主導していたASEAN内でのFTAの枠組みも逆にベトナムやインドネシアの力が徐々に高まっているもようです。

初心者の方にはわかりにくいかもしれませんが
ASEAN=東南アジアの国々
APEC=環太平洋の国々

こんな感じで理解を深めてください。

ちなみにAPECは以下の国で構成されます。現在21カ国。

ASEANでは (フィリピン、インドネシア、マレーシア、タイ、シンガポール、ブルネイ、ベトナム)

- ・ アメリカ圏 (米国、カナダ、メキシコ、チリ、ペルー)
- ・ オセアニア圏 (オーストラリア、ニュージーランド、パプア・ニューギニア)
- ・ 他のアジア圏 (日本、韓国、中国、中国香港、台湾、ロシア)

これらのメンバーによるAPEC地域の経済規模は、世界全体のGDPの約60%に

なります。

APEC地域における人口は、
世界全体の約4割となり、日本の貿易のうち輸出・輸入とも
約70%をAPEC地域が占めると言う、実は日本にとってかなり重要な
キーファクターとなる会議なのです。

で今回開催されたAPECの中で
米国とのいざこざがあったそうです。

小泉総理政権の任期が終わる頃、
日本・二階経済産業相はASEANと日本、中国、韓国、豪州、NZ、インドを
含めた16カ国の自由貿易協定をぶち上げて中国に対抗しようとした。

中国が提唱するプラス3構想(ASEAN+3日中韓)での経済連携協定では
中国主導で進んでしまうためにオーストラリア、ニュージーランド、インドを
巻き込んだ形ですがこれにアメリカが反発したそうです。

米国抜きでアジア経済連携協定を進めようとする日本に対して
不快感を表したもようです。

わたくしが思うに
問題はASEANを中心にさまざまな駆け引きが行われていて、
その中心力はASEANの指導者が握ればいいのですが
そうした卓越した指導力を持ったリーダーがASEANには
まだ登場していないことに懸念があります。

タクシン首相はその要素がありつつもダークなイメージを
払拭できず、さらに株式売買で疑惑を持たれて退陣に追い込まれました。

これは非常に残念です。
いずれにしても今回のAPECでのタイ側の主張は
大変小さいものであったと思われます。

□□No 4 追伸です■■■

さてこの欄ではそもそもわたくしABEがタイに来るきっかけになったこと
からお話したいと思います (埼玉編第3号です。)

中学校へはそのまま近所の一番近いところへ
通うことになりました。当時はまだほとんどが公立中学校へ進学してて

ごくわずかな子だけが都内の私立中学を受験するという形でした。

いまはもう私立中学受験が普通の選択肢の一つになっているようですが・・・。

当時新しい環境というのが非常に不安だったわたくしは

「中学校の勉強についていけるのか？」

「英語の授業って相当難しいんじゃない??」

っていう考えの方がとても強かったのを覚えています。

小学校卒業式の終わった後、

何もすることがなかった自分は通信教育「進研ゼミ」を取ってみることにしました。

小学校時には学研などで読み流す程度だったのですが

当時非常に上手なマーケティング手法でうまく乗せられて

親に申し込んでみたいって言ったような気がします。

現在この「進研ゼミ」は「ベネッセ」に名を変更していろいろな分野へ拡大成長していますね。

もしお子さんのいる方で

こういうものを一度目にされることをお勧めします。

プロがかなり力を入れて考え抜いて教えているので親御さんに対しても

勉強になります。(こういう教え方で教えるのかと言う点で。)

大学受験時でもそうでしたが

プロが身を削って考えている教え方はわかりやすさ、身に染み込む度合いが違う気がします。

そんなわけでそれほど中学時代に勉強で悪い成績を取ることもなく

部活がたいへんハードでも部活動と勉強を両立させることができてました。

ちょっと部活動の方へ話を向けると

中学時代は3年間ずっと野球部でした。

まだただけっこうあるとは思いますが

1年生は全員坊主頭にしなければならないのですよね。

(うちの部は五厘刈りが基本でした。)

これは思春期の子にとってけっこうつらいですね。

ちなみに自分は合理的に「シャンプーと頭洗うのに便利。」

と言った理由でさほど気にしませんでした(^ ^)

何人かは自分は髪切るなんて嫌だと入らない子もいました。

当時はバスケットでスラムダンクと言うマンガがブームだったり、

サッカーの方がJリーグの誕生で人気が高くて野球部を辞める

友人も数多くいて半年過ぎたら半分になってました。

確かに1年生は声出し、球拾い、ランニング、基礎体力作りと

大変地味な練習しかないのでつまらないのですよね。

読者のみなさんの時代にも

「練習中には水は一滴も飲まない！」

「上級生に呼ばれたら大きく返事！」

などなど他にもココではとても書けない捻みたいものありませんでしたか？

でもこう言った厳しい環境は今の日本ではそうそう味わえませんよね。
だからこの時の走っている時の思い出はいまでも覚えていますね。

何十周もグランド走っているとふと見上げる空の色なんか気がなってきたり、
夕日を見ながら走っているのが苦痛じゃなくなったり。
これを書いててなんだか中学校をのぞいて見たくなりました。

最後までお読み頂き有難うございました。

ブログともども次号もぜひよろしくお願いいたします。

●注意事項です

- 1：わたくしのメールマガジンは客観的情報の提供を目的としており、投資等の勧誘または推奨を目的としたものではないことをご了承ください。
- 2：タイの情報については細心の注意を払っておりますが、その内容に相違が発生する場合もあり、保証するものではありません。
- 3：タイの株式売買決定は自己責任でお願い致します。



メールマガジン 『日本人の98%は知らないタイ株投資！』

発行責任者： TOSHIYUKI ABE

※公式サイトはこちら → <http://toatoa.jugem.jp/>

Copyright (c) 2003-2006 Toshiyuki Abe. All rights reserved.

